



配給／東宝東和

2003 (平成15) 年4月1日鑑賞

＜ヘラルド試写室＞



監督：ロブ・ボウマン

出演：マシュー・マコノヒー／クリ
スチャン・ペイル／イザベ
ラ・スコルポ

サラマンダーとは6500万年の眠りから覚めて突如ロンドンに現われた、地球上の人間を食い尽くす邪悪なる巨大竜のこと。2020年、地球は廃墟となり、人間は怯えながら、要塞にこもって細々と生きていた。その要塞にやってきたのはアメリカ人の集団。ここから、サラマンダーと人間との戦いが始まる。「人間と怪獣との戦い」というパターンの映画で、とくに観るほどのこともない・・・という失礼か・・・。

＜前宣伝からわかる映画の内容＞

この映画の前宣伝は、「地球滅亡は最悪の形でやってくる」、そして「生き残りたいなら、空だけ見てろ、ヤツらにとって、人間は単なるエサでしかない……。」。そして、映画のタイトルの『サラマンダー』とは、「それはかつて地上に君臨した邪悪なる巨大竜。彼らはその想像を絶する惨猛さで恐竜を喰らい、紅蓮の炎で地表を焼き尽くし、そして恐るべき繁殖力で地球を支配した」（パンフレットより）とのことだ。

＜ロンドンでサラマンダーを発見＞

この映画の主人公クイン（クリスチャン・ベイル）は、12歳の時、ロンドンの地下鉄工事に従事している母親を訪れた時、不幸にも6500万年の眠りから目を覚ましたサラマンダーとめぐり合ってしまった。もちろん工事現場の人間は母親を含めて、全員死亡だ。

＜それから20年後＞

そして今は、西暦2020年。恐るべき繁殖力で地球を支配しようとしたサラマンダー

に対し、人間は遂に核兵器を使用した。しかしサラマンダーと対決するはずの核兵器は、都市や人間を破壊したが、サラマンダーを倒すことができなかった。そして今やロンドン、パリをはじめとする地球上のすべての都市は破壊され、人間は、廃墟となった建物を要塞化して、その中にとじこもり、サラマンダーの恐怖に怯えながら、細々と暮らしていた。今や生存している人間自体がわずかしかなかったことは明らかだった。

＜アメリカ人の登場＞

クインがリーダーとなって守っている要塞に、突如ヘリコプターと戦車で武装したアメリカ人のケンタッキーの義勇軍が訪れた。何と彼らはサラマンダーと戦うというのだ。もちろんクインはこれに反対したが、アメリカ人のリーダー、ヴァンザン（マシュー・マコノヒー）とヘリコプターを操縦する女性兵士アレックス（イザベラ・スコルプコ）は、部下たちと力を合わせて決死の戦いの挙句に1匹のサラマンダーを退治した。その後、クイン、ヴァンザン、アレックスらとサラマンダーとの死闘はいよいよ佳境に・・・。

＜私の感想＞

私としては、この手の映画はあまり好きじゃない。要するに人間と怪獣との戦争を描いたストーリーにすぎないから。そして最後は人間が勝つこともわかっているからだ。もっとも、ストーリーの出来や巨大竜との戦いの迫力はまずまずで、楽しめることはまちがいない。しかし私に言わせれば所詮それだけの映画。ジャンジャン。

2003（平成15）年4月2日記